

文化団体への支援の現状等

【現在の支援の概要】

- ① 教育委員会で把握している市内の文化芸術団体のうち、全市的に活動する団体は下表のとおり。28 団体、会員数 5017 人。

No.	団体名	会員	No.	団体名	会員
1	船橋市美術連盟	323	15	船橋フィルハーモニー管弦楽団	95
2	船橋市史談会	23	16	船橋市吟剣詩舞連合会	161
3	船橋吹奏楽団	60	17	船橋市交響吹奏楽団	58
4	アルファエニック吹奏楽団	35	18	湊町ばか面踊り保存会	372
5	船橋市三曲協会	27	19	船橋ばか面おどり 友の会連絡会	26
6	船橋市日本舞踊連盟	65	20	船橋市新舞踊連盟	56
7	船橋市民謡民舞連合会	106	21	ふなばし囲碁協会	33
8	船橋市華道連盟	177	22	特定非営利活動法人 ふなばし演劇鑑賞会	1,839
9	船橋市茶道連盟	69	23	船橋民話フェスティバル連絡会	8
10	特定非営利活動法人 船橋子ども劇場	132	24	船橋市芸術文化団体協議会	274
11	船橋市合唱連盟	659	25	船橋ジュニアオーケストラ	77
12	船橋市謡曲連合会	56	26	ふなばしウル・サークル連合会	90
13	船橋地区アマチュア人形劇 連絡会	33	27	船橋古典舞踊協会	25
14	船橋市写真連盟	58	28	船橋市大正琴協会	80

- ② 上記のほか、公民館で活動する社会教育関係団体のうち文化芸術活動を行う団体は 780 団体、会員数 9651 人※①と重複あり
- ③ ①②の社会教育関係団体に対し公民館使用料を減免（半額）している。
- ④ ①の団体について、文化団体間の連携・協力を推進し、市民が主体となって本市の文化振興を図る一助とすることを目的として、年に 1 回意見交換会を行っている。
- ⑤ 別紙（令和 5 年度文化振興事業）の事業について文化課が団体と共に事業を開催するほか、団体からの申請に基づき事業の後援を行っている。
- ⑥ 「ふなばしミュージックストリート」「音楽のまち ふなばし 千人の音楽祭」をそれぞれ実行委員会方式で開催し、文化課が事務局を担っている。

【これまでの経緯】

1. 昭和 49 年度の「船橋の社会教育」によると【当市は、歴史的に江戸、東京の文化圏であった。そのため郷土的特性をもった文化や文化材は育たず、すべて江戸、東京にかかわりをもっている。したがって、市民にとって文化的要求は東京で充足され、地域に求めるものは、余暇利用と集団活動のなかでの文化活動を期待している。市の文化行政の主流をなしているのも、趣味、同好グループの育成であって…】とあり、市が文化団体の育成に関与してきた経緯がある
2. 昭和 40 年代から一部の団体に対し「文化振興団体補助金」を交付していたが、平成 20 年から 21 年にかけて市補助金の全庁的な見直しがあり、廃止となった。

【課題】

1. 自治体側の課題
 - ・第 2 次船橋市文化振興基本方針の総合指標である【船橋市を「文化が盛んなまち」だと思える市民の割合】を、令和 3 年度の 40.3%から令和 8 年度までに 60%とすることが必要。
 - ・市民の文化活動を広げるための具体的な取り組みが必要。
2. 文化団体側の課題
 - ・会員の高齢化
 - ・会員の減少
 - ・人材の育成
 - ・活動の PR や情報発信が足りない・少ない
 - ・活動資金が足りない、少ない